

# 「受け入れないと情報が得られない」はウソだった！

2017年5月26日 「I Love いしがき」FB ページに投稿



昨日（5月25日）お伝えしたように、5月18日、赤嶺政賢衆院議員のヒアリングに対して防衛省は、「受け入れ表明がない限り図面を見せないという態度をとったことはない」と答えたそうです。

しかし、沖縄防衛局の森部長（当時）は、昨年4月の説明会で、駐屯地の位置や面積について、「市に受け入れていただかないと詳細は決められない」と説明し、説明会終了後報道陣に、「市が受け入れた後、地権者との話し合いで（同意が得られるという）感触をとれないと図面を引くことはできない」と言いました（八重山毎日新聞2016年4月23日付）。

中山市長が、昨年末の「受け入れ表明」の最大の理由にしたのも、「受け入れないと情報が得られないから」でした。例えば、12月28日、「受け入れ表明」に抗議するため市役所を訪れた市民連絡会のメンバーに対して、「住民からヘリ、道路、騒音、自然環境などについて疑問が出ていたが、市長としては何の回答もできない。議論を深めるためには了承するほかない」と述べ（八重山毎日新聞2017年12月29日付）、年が明けて1月13日に4公民館代表と面会した時には、「市ですら、どの地番が候補地になっているか分からないので、配備に向けての手続きを容認する旨、伝達した」と言っていたのです（八重山毎日新聞2017年1月13日付）。

赤嶺議員への防衛省の説明通りだとすれば、森部長は市民に嘘をつき、中山市長は騙された（あるいは加担した）ことになります。

しかし、これは、はじめからそういう作戦だったのではないのでしょうか？「現実性のある配置図を見せれば住民が反発し、市長も受け入れを言いにくくなる。だから、まず受け入れを表明させて、それから配置図を発表して既成事実化を図る。その上で、『めくら判』を押させたと非難されないように、『そんな態度を取ったことはない』と言う」と。

でも、それで逃げおおせるとするのは間違いです。

新聞記事や、録音、動画を示して森部長の発言を確認し、沖縄防衛局が「まず表明」を迫ったのは事実だと明らかにしましょう。そして、「そんな態度はとらない」と言っている防衛省に、このやり方は原則違反の間違いだたと認めてもらいましょう。

市長には、「受け入れなければ情報は出てこない」という「理由」が「誤解」だったと認めてもらい、「受け入れ表明」を一旦撤回し、市民が知りたい配備計画の詳しい情報をまず手に入れて、説明してもらいましょう。それが、筋というものではないのでしょうか？



写真は配置図（5月18日付八重山毎日新聞より）